

やまなし小学校教育コース

コース紹介詳細は
Webページへ



取得免許(卒業要件)

小学校一種 + 特別支援学校一種
または
小学校一種 + 中学校二種

10教科(国語、英語、社会、家庭、数学、理科、技術、音楽、美術、保健体育)から一つを選びます。

山梨県内外の教育課題について広い視野から探究する

第一に、次代の山梨県の小学校教育を担う教員を養成すべく、山梨県教育委員会や教職大学院、附属学校などと連携を図り、山梨県内の教育課題について実践的に学び、その実践的な知識が学術的にどのような意味があるのか、国内外の教育課題とどのように連動しているのか、深く検討します。第二に、デジタル化やグローバル化といった社会の大きな流れに対して教員として対応する力を身につけるとともに、批判的に考えられる態度を身につけます。第三に、学んだ成果を他者に伝えることが重視され、レポートやプレゼンテーションの機会が頻繁に用意されます。なお、本コースには「山梨県の小学校教員志望者推薦入試」による入学者が在籍します。



●カリキュラム・特徴ある授業や取り組み●

教育現場を肌で感じる実践中心の授業、小学生のこころとからだの発達に関する理論中心の授業、山梨県内外の教育をとりまく最先端の課題を探究する授業、実践と理論をつなぐためのデータリテラシーとICTスキルに関する授業など、現代の教育に対して多様な観点から学びます。1～2年次は主として教員免許に必要な授業を履修することになるので、コースの専門科目の多くは3～4年次に用意されています。

●主な授業科目

1年次	2年次	3年次	4年次
教育フィールド体験I 子どもの育ちを支える校種間連携	デジタル教材の開発 小学校における多文化共生 海外学校観察実習I 地域素材の教材化	学校外体験実習 教育データの分析法 小学生のこころの発達	教育フィールド体験II 小学校教師論 山梨の教育事情 小学生の運動発達ゼミナール 卒業論文

教育フィールド体験 I (附属小学校)

本コースの専門科目で、学生の皆さんが最初に出会う授業です。この授業では、実際に小学校へお邪魔して、教育現場における教師・児童の関わりと児童同士の関わりを観察します。この実地体験を実りあるものにするため、「こころとからだ」の発達の視点を学び、体験から得た学びを理論的に位置づけます。



入学前教育から学部入門ゼミへの接続

入学前教育では、特定のテーマに関するレポートを書きます。入学後の学部入門ゼミで、レポートの書き方に関するいくつかのルールを学びながら、入学前教育で提出した自身のレポートの推敲をします。この一連の作業でレポート執筆に必要なスキルを実践的に学びます。



MESSAGE

学生メッセージ 2年生 K. I. さん (甲府東高校出身)

学習から学修へ、同じ夢を持つ仲間と学ぶ日々を過ごしませんか

本コースは小学校教育に特化した専門科目を通してより具体的に指導法を学べる場です。観察して発表するという機会が多いため、仲間との視点の違いや多様な考えに触れることができ、何より実用的な学びを得ることができます。小学校教員を目指す人にはこれ以上ない環境です。仲間と先輩と、ぜひ一緒に楽しく学びませんか。



教員メッセージ 田中健史朗 先生 (専門分野: カウンセリング心理学)

小学校教育の「当たり前」を疑い、本質と出会う！

宿題を出すことを法律で禁止している国があります。悪影響があると考えるからです。異なる世界を知ること、宿題の意味を深く考えることができます。本コースには、得意な教科が異なる学生が集まります。多様な視点から小学校教育の「当たり前」を疑い、本当に大切なことは何かを理解した山梨県の小学校教員を目指しましょう！



研究紹介①

～研究テーマ～
情報発信の心理学



小野田 亮介 Onoda Ryosuke
勉強が大嫌いな高校生、やる気のない浪人生、よく遊ぶ大学生、好奇心に身を任せる大学院生を経て現職。専門は教育心理学、教育工学。研究の面白さを学生と共有することと、昆虫採集が好き。

そのメッセージ、誰に向けている？

みなさんは文章を書いたり、何かについて話したりするとき、メッセージの「受け手」を意識していますか？実は、受け手の意識はとても難しく、漠然とした受け手しかイメージできなかったり、メッセージを作るプロセスで受け手像がゆらいだりすることが多々あります。

受け手への意識は適切な情報の選択と提示において不可欠です。もし、受け手への意識が不十分であれば、「意見書を出したのに納得してもらえない」、「笑ってもらえると思った SNS の投稿が炎上する」など、予想外のネガティブな結果がもたらされるかもしれません。どのように受け手を想定すれば、効果的で安全な情報発信ができるのでしょうか。学生や学校の先生方と議論しながら、こうした問題への解決策を考えています。



基礎的な問い

- ・受け手のゆらぎ現象 (audience fluctuations) はなぜ生起するのか？
- ・受け手がゆらぐことは、情報発信において悪いことなのか？

実践的な問い

- ・適切な情報発信のためには、どのような受け手の想定を促せば良い？
- ・そのための具体的な指導方法は？

コースの紹介

自分の将来に、ぼんやりとでも「小学校の先生」というイメージが浮かんでくるそのあなた、ぜひ本コースへ！

山梨大学は令和6年度より文科省「地域教員希望枠事業」(名称略)の選定大学として、教育委員会と連携・協働しながら、「やまなし小学校教育コース」を中心に、山梨県の小学校の先生を量的・質的に確保するための5年間の取組をはじめました。子どもが先生の魅力を感じ、経験を積み重ね、「新しい時代を子どもとともに生きる先生」に成長するための多様な支援を行います。



「先生になりたい」原石が「先生として子どもとともに生きる」貴石として輝く

やまなし小学校教育コースでは、山梨県内の教育現場における実務経験が豊富な「実務家教員」による高校生向け教育講座や入学前教育の開講など、高大接続の推進にも積極的に取り組んでいます。

「なりたい」(志望)から「なります」(決意)、そして、やまなしの先生になる(実現)

研究紹介②

～研究テーマ～
スローペダゴジー



大野 歩 Ohno Ayumi
小1の時に科学博物館で出会った「アマゾンの子」に魅入られて「博物館のおねえさん」を志し、気がつけば現職。専門は保育学・幼児教育学。乳幼児の観察と、米粉のパン・お菓子作りが好き。

0歳から始まる学びと大人のかかわりを紡ぎなおそう！

現在、多くの国々では、「保育」を「乳幼児期の教育」へ転換して、あらゆる子どもへ公平に提供しようとする政策が展開されています。その過程で保育制度と学校教育制度をつなげようとする際に、双方の接続面で実践の方法や形態が融合して変容する「保育の学校化」現象が起こり、時に問題視されます。

もちろん、「遊びを通して学ぶ」保育・幼児教育と「授業を通じて学ぶ」小学校教育では、考え方や方法が異なるかもしれませんが、子どもが「これ、なんだろ？」と心惹かれたものを追いかける姿は、年齢に関係なく通底しているのではないのでしょうか。私は、そんな子どもたちを、多くの大人がゆっくり見取り、立場を超えて協力し支えあう制度や実践をつくりたいと考えています。

保育所・幼稚園・こども園・小学校へ観察に出かけ、子どもたちと話しながら「楽しいこと」「悔しいこと」「悲しいこと」「面白いこと」などを教えてもらい、乳幼児期～児童期における探究の異同をさぐって、0～7歳の連続した学びの実態をとらえていきます。

1歳児



ねえ、みて！ボールがコロコロすると、なんかツツツツするの～
(ニュージーランドの保育所にて)

4・5歳児



え～、いっしょにやろうよ～、土に水を入れてどろどろにしたら、すっごく気持ちいいんだから！
(日本の幼稚園にて)

6歳児



あのさ、ぼくの好きなサッカーは「fotball」って書くんだよ、ほら、かっこいいでしょ！
(スウェーデンの就学前クラスにて)